

## 重要課題（マテリアリティ）

### KV25 マテリアリティ

日本化薬グループは、ありたい姿「KAYAKU spiritのもと、存在感をもって、永続的に環境、社会、すべてのステークホルダーに幸せやうれしさを提供できる会社であること」の実現に向けて、現状とのギャップを分析し、優先して取り組むべき5つの課題（新事業・新製品創出、気候変動対応、DX、仕事改革、働き方改革）を全社重要課題としました。

また、サステナブル経営の推進にあたり、社内外の視点から当社グループが抱える重要課題を適切に把握し、これをサステナビリティ重要課題と定め、事業活動と連動したサステナビリティ・アクションプランを策定しました。

KV25ではサステナブル経営基本方針のもと持続可能な環境・社会の実現に貢献するため、全社重要課題を最優先で取り組み、それを補完するかたちでサステナビリティ重要課題に取り組みます。全社重要課題とサステナビリティ重要課題を合わせた総称を「KV25 マテリアリティ」としています。



※ 各サステナビリティ重要課題の前についている■は、全社重要課題の取り組みがサステナビリティ重要課題の取り組みにもつながることを示しています。

### 全社重要課題の取り組み

日本化薬グループは「ありたい姿」の実現に向けて、目標と現状とのギャップを分析し、組織横断の全社プロジェクトで優先して取り組むべき5つの課題（新事業・新製品創出、気候変動対応、DX、仕事改革、働き方改革）を全社重要課題として定めました。全社重要課題の取り組みの浸透や各課題解決のスピードアップを図るため、複数の部門から選出されたメンバーによって構成されるM-CFT（マテリアリティ・クロスファンクショナルチーム）で取り組んでいます。

全社重要課題	取り組み内容
新事業・新製品創出	「モビリティ」「環境エネルギー」「エレクトロニクス」「ライフサイエンス」の4分野において、4事業と連携し既存組織の壁を越えて、新事業・新製品を創出し、ありたい姿の実現に貢献します。
気候変動対応	温室効果ガス排出量の削減等の地球温暖化防止やカーボンニュートラルの取り組み目標を設定し、各工場・研究所と一体となって気候変動リスク対策に取り組みます。
DX	全社的にDXを推進し、プロセスの変革で売上の拡大、コストダウンで事業の拡大を図ることが当面の目標です。具体的には、①IT教育や意識改革、②ERPやITインフラ再構築等のIT基盤強化、③研究開発、生産、営業・マーケティング、管理の各業務プロセスにおけるDXに取り組みます。
仕事改革	グループ経営・事業運営（マネジメント）管理方法や原価管理方法の見直し、あらゆるムダを省く業務改善・原価低減を目的としたA3活動（KAIZEN）※を通じた仕事の効率化や生産性の向上により、資産効率と稼ぐ力の向上に取り組みます。
働き方改革	「生き活きた強い会社・いい会社」を目指し、従業員一人ひとりが活力をもって仕事し、従業員のエンゲージメントが高まるよう働き方改革と人事制度改革に取り組みます。

※ A3活動（KAIZEN）・・・「原価低減意識」を基本とした、日本化薬グループを「生き活きた会社」にするための個人と組織の強さ（スキル・専門性）や自律性を養う意識改革活動

## サステナビリティ重要課題の特定方法

日本化薬グループは、社内外の視点から当社グループが抱える課題を適切に把握し、ステークホルダーの期待や要請に応じていくために、2019年より社外の視点も取り入れて中期CSR重要課題を特定し、中期CSRアクションプラン2019-2021を策定し、活動を推進してきました。

2022年4月に中期事業計画**KAYAKU Vision 2025**のスタートとCSR経営からサステナブル経営に切り替わるタイミングに合わせて中期CSR重要課題からサステナビリティ重要課題と名称を改め、事業活動の多様化や社会課題の変化に適切に対応するためにサステナビリティ重要課題の見直しを行いました。

STEP 1

課題項目の  
認識

- 多様化する社会から求められる要請事項についてGRIスタンダードで抽出されているテーマをベースに、当社グループの前サステナビリティ重要課題（**KAYAKU Next Stage** 中期CSR重要課題）で設定されているテーマを加え、課題項目として設定。

STEP 2

社内/社外意見の  
ポイント化

- A. 外部評価のポイント化  
責任投資を推進している複数の国際的な評価機関からの当社への産業別の評価基準、およびSASB<sup>※</sup>の産業別の要求基準を、課題項目と紐付けし外部評価としてポイント化。
- B. 内部評価のポイント化  
社内の各事業部門・コーポレート部門の本中計重点テーマを、課題項目と紐付けし内部評価としてポイント化。

※ SASB : Sustainability Accounting Standards Board (サステナビリティ会計基準審議会。サステナビリティの開示基準を業種別に策定・公開している米国の非営利団体)

STEP 3

重要課題  
マッピング

- 課題項目「コーポレートガバナンスの強化」、「コンプライアンスの徹底」については“企業存続に関わる最重要課題”として特定し、その他の課題項目はポイント化した外部評価、内部評価によって、重要課題マッピングを作成。ポイントベースでのマップに閾値を入れ、この値以上のものを重要な項目として特定。

STEP 4

妥当性確認と  
承認

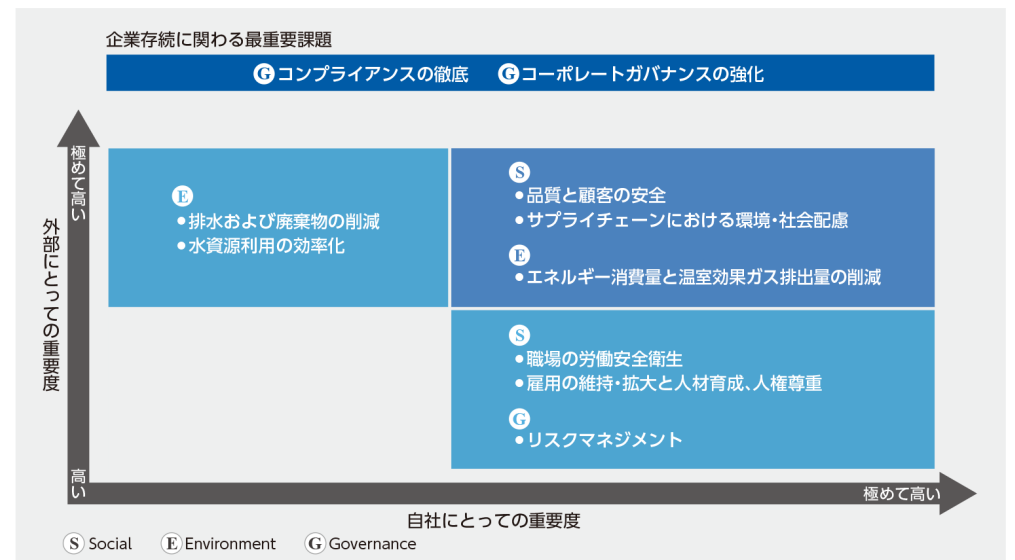
- 特定方法および特定結果について、サステナビリティの専門家である有識者による意見も取り入れながら、当社の意思決定機関であるサステナブル経営委員会においてレビューし、2回にわたる審議を経て承認。

## サステナビリティ重要課題の取り組みとKPI

日本化薬グループは、特定したサステナビリティ重要課題と事業活動を連動させたサステナビリティ・アクションプランを策定しました。合わせてSDG Compassを活用し、SDGsの17目標の紐付けをしています。サステナビリティ・アクションプランのKPIの達成に向けて取り組みを進めていくことで、SDGsの達成とともに持続可能な社会の実現に貢献します。

### サステナビリティ重要課題

サステナビリティ重要課題は「企業存続に関わる最重要課題」「最重要課題」「重要課題」の3つに分類し、各課題のアクションプランを定めています。



## サステナビリティ・アクションプラン

日本化薬グループのサステナビリティ・アクションプランでは、SDG Compassを活用し、各重要課題とSDGs17目標を紐付けています。当社グループは毎年KPIの進捗状況を管理・開示しサステナビリティ活動を推進することで、環境・社会的価値と経済的価値を創造し、SDGsの達成（持続可能な社会の実現）と企業価値向上を目指します。

	サステナビリティ重要課題	目指すSDGs	アクションプラン	重要指標 (KPI)	2025年度到達目標
企業存続に関わる最重要課題	コンプライアンスの徹底		<ul style="list-style-type: none"> <li>企業活動を行う上での基本原則であるコンプライアンスを徹底し、公正な事業運営を遂行する</li> <li>高い倫理観をもつ風通しの良い企業風土を維持・強化する</li> </ul>	重大コンプライアンス違反件数※1 コンプライアンス研修の実施率	0件 100%
	コーポレートガバナンスの強化		<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ全体のコーポレートガバナンスを強化し、透明性が高く健全な経営を行う</li> </ul>	取締役会の実効性評価実施回数 監査部による内部業務監査実施回数	1回/年 60回/4年間
最重要課題	品質と顧客の安全		<ul style="list-style-type: none"> <li>品質マネジメントシステムの継続的な改善と、品質ガバナンスを徹底することにより、品質管理・品質保証体制をより強固にする</li> <li>品質経営を推進し、デジタル化による生産効率の向上と工程異常の低減を図る</li> </ul>	重大顧客苦情件数※2 重大工程異常件数※2	0件 0件
	サプライチェーンにおける環境・社会配慮		<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブル調達ガイドラインに基づき、環境面や社会面に配慮したサプライチェーン・マネジメントを実践する</li> </ul>	サステナブル調達ガイドラインに対する同意確認書の回収率 お取引先へのアンケートを利用した改善計画の策定・実施	(単)90%以上 (単)進捗状況を開示
最重要課題	エネルギー消費量と温室効果ガス排出量の削減		<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー・地球温暖化対策活動を推進し、2030年度環境目標を達成する</li> <li>2050年度カーボンニュートラル達成に向けた課題の抽出と戦略を明確化する</li> </ul>	温室効果ガス排出量 (Scope 1+2)	(2030年度達成目標) 87,132トン以下 (2019年度比32.5%以上削減)
	VOC排出量			(単)実績を開示	
	COD排出量			(単)実績を開示	
	廃棄物発生量			(単)実績を開示	
	リサイクル率			(単)80%以上	
	ゼロエミッション率			(単)1%以下	
	SBTに批准した目標設定と具体的施策の検討・実施			進捗状況を開示	
	TCFD提言に沿った情報開示			進捗状況を開示	
環境問題に配慮した製品・技術の開発推進	進捗状況を開示				

	サステナビリティ重要課題	目指すSDGs	アクションプラン	重要指標 (KPI)	2025年度到達目標
重要課題	職場の労働安全衛生		<ul style="list-style-type: none"> <li>安全衛生に関する基本ルールの徹底と、設備や作業手順の改善により、安全作業基盤をより強固にする</li> <li>健康経営を推進し、従業員が生き生きと働けるワーク・ライフ・バランスのとれた職場環境を提供する</li> </ul>	重大事故災害件数※3 健康経営優良法人（大規模法人部門）認定取得 有給休暇取得率 メンタルヘルス研修受講率 定期健康診断受診率 アンケートを利用した従業員満足度の把握とその向上	0件 (単)認定取得継続 (単)70%以上 (単)100% (単)100% (単)進捗状況を開示
	雇用の維持・拡大と人材育成、人権尊重		<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な人材の採用と効果的な人材配置および交流により、ダイバーシティ&amp;インクルージョンを推進する</li> <li>継続的な人材育成により、ものづくり技術力の継承・強化と人材のグローバル化を図る</li> <li>従業員をはじめサプライチェーンに関わるあらゆる人々の人権に配慮した事業運営を行う</li> </ul>	女性管理職比率※4 障がい者雇用率 従業員一人当たり教育研修投資額 従業員一人当たり教育研修時間 人権に関する研修回数 人権デュー・デリジェンス「人権への影響評価」実施率	(単)10%以上 (単)法定雇用率達成 (単)実績を開示 (単)実績を開示 1回以上/年 (単)2022年度100% (連)2025年度100%
	リスクマネジメント		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業に関わるさまざまなリスクへ対応し、生産体制の維持、原材料の適正確保、災害対策の強化により事業継続性を確保する</li> </ul>	事業等のリスクコントロール活動・TOP5リスクコントロール活動実施率 BCP訓練実施回数	100% 1回以上/年

※1 倫理委員会にて重大と判断した案件数  
 ※2 損失額1,000万円以上  
 ※3 3人以上の同時休業災害または死亡災害  
 ※4 2024年度末の目標値

## 中期CSRアクションプラン2019-2021の結果

前中期事業計画KAYAKU Next Stage の中期CSRアクションプラン2019-2021の結果は以下からご覧ください。

▶ [中期CSRアクションプラン2019-2021の結果](#)

## サステナビリティ重要課題のリスクと機会

日本化薬グループは、特定したサステナビリティ重要課題のリスクと機会を認識した上で、リスクを低減し、新たな事業成長につながる機会を取り込むことで、持続可能な社会の実現とさらなる企業価値の向上を目指します。

	サステナビリティ重要課題	リスク	機会
企業存続に関わる最重要課題	コンプライアンスの徹底	コンプライアンス違反による社会的信用の失墜 企業価値の毀損 事業活動の低迷	ステークホルダーからの信頼獲得
	コーポレートガバナンスの強化	事業活動の停滞	ステークホルダーからの信頼獲得 社会的信用力の向上
最重要課題	品質と顧客の安全	品質不適合の発生による顧客の離反 品質管理、表示等の法令違反による社会的信用の失墜	高品質の製品供給による顧客の信頼獲得
	サプライチェーンにおける環境・社会配慮	お取引先の違法行為・コンプライアンス違反による企業活動への悪影響	サステナブルな社会の実現への貢献 長期的な競争力の向上
	エネルギー消費量と温室効果ガス排出量の削減 排水および廃棄物の削減	【移行リスク】 • 排出規制強化の影響による操業コスト増大 • 電力およびLPG等の価格上昇 • 排出規制強化の影響による原料価格上昇 • 環境情報開示およびLCA算定等のコスト増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートシティー化やDXの伸張により、半導体関連素材、低消費電力に寄与する材料素材が拡大</li> <li>次世代蓄電池向け材料が拡大</li> <li>モビリティの軽量化に寄与する樹脂素材が拡大</li> </ul>
	水資源利用の効率化	【物理リスク】 • 台風、大雨、高潮等による洪水被害によるコスト増加 • 水不足による操業への影響 • 気温上昇による労働生産性の低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>EVの軽量化のための光学材料や自動運転化のためのセンサー材料も伸張</li> <li>気温の上昇が見込まれ、農業の生産性の維持向上に寄与するバイオスティミュラントや、新たに問題化する害虫への既存農薬の適用拡大</li> </ul>
重要課題	職場の労働安全衛生	事故・不祥事の発生による社会的信用の失墜 労働生産性の低下や人材の流出	安全文化の醸成 従業員のワークエンゲージメントの向上
	雇用の維持・拡大と人材育成、人権尊重	人材の属性やスキルの偏りによる発想の画一化と新たな事業機会の喪失 人権侵害による社会的信用の失墜	価値観の多様化による新たなアイデアを生み出す企業風土の醸成 サステナブルな社会の実現への貢献と長期的な競争力の向上
	リスクマネジメント	経営に関わるリスクの増加	非常時の事業継続性の確保

## KAYAKU Next Stage CSR重要課題の取り組み結果

事業を通じたイノベーション	品質と顧客の安全	取引先のアセスメント	エネルギー消費量と温室効果ガス
排水および廃棄物	水資源の利用の効率化	省資源に貢献する原材料利用	職場の労働安全衛生
コンプライアンス	製品サービスの適切な情報提供	雇用の維持・拡大と人材育成	人権尊重とアセスメント
地域コミュニティ	経済パフォーマンス	コーポレートガバナンス強化	事業継続性の確保

### 事業を通じたイノベーション

#### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 事業部門が一体となって市場への出口を見据えた研究開発を推進し、コア事業およびシナジー領域における新製品・新事業を創出する
- 中長期的な研究開発テーマへ経営資源を投入し、基盤技術力を高めるとともに、将来の社会ニーズに応える



重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
3年間の研究開発投資額	(連) 400億円/3年間	(連) 130億円/2021年度 365億円/ (2019-2021年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代通信MEMS用レジストの拡大および半導体クリーナー展開のため台湾ラボ投資決定</li> <li>軟包装用(フィルム) インクジェットインク開発の進展 (2023年度上市予定)</li> <li>太陽光(熱)を利用した完全グリーン水素製造用触媒の工場試製完了。500kWプラントでのテストに向け豪州へ送付</li> <li>MOXTEK社製の無機偏光板を搭載した、NASAジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡の打ち上げ成功、宇宙探索に貢献</li> <li>アカデミア等とバイオ・高分子技術に関する研究を開始</li> <li>液剤化、室温保存を実現したジェネリック抗がん薬ベムトレキセド点滴静注液を新発売</li> <li>ドローン用パラシュート安全装置を製品化、上市</li> <li>農薬工法製剤のテーマの充実化、新規化合物創出の具体化、農業外分野への研究を推進</li> </ul>

### 品質と顧客の安全

#### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 品質マネジメントシステムの継続的な改善と、現場力の強化を図り、品質管理・品質保証体制をより強固にする
- 品質経営を推進し、生産技術・ノウハウのレベルアップと工程異常の低減を図る



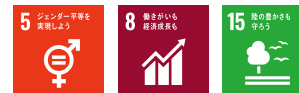
重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
重大顧客苦情件数※1	(連) 0件	(連) 0件	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大顧客クレームの発生なし</li> <li>福山工場、厚狭工場、東京工場、本社・研究所、台湾日化を含めた機能化学品事業本部では、品質マネジメントシステムの一体運営に取り組み2021年7月にISO9001の統合認証を取得</li> </ul>
重大工程異常件数※1	(連) 0件	(連) 3件	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿島工場、アグロ研究所を含めたアグロ事業部では、品質マネジメントシステムの一体運営に取り組み2021年8月にISO9001の統合認証を取得</li> </ul>

※1 損失額1,000万円以上

### 取引先のアセスメント

#### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- CSR調達ガイドラインに基づき、環境面や社会面に配慮したサプライチェーン・マネジメントを実践する

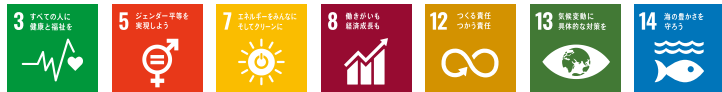


重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
主要取引先への実地アセスメント回数	(単) 50件/年	(単) 7件	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実地監査ができず、ウェブ監査および書面監査に切り替えたケースが増加</li> </ul>

## エネルギー消費量と温室効果ガス 排水および廃棄物 水資源の利用の効率化 省資源に貢献する原材料利用

### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 省エネルギー・地球温暖化対策活動を推進し、2020年度環境目標を達成するとともに、2030年度の環境目標を策定する
- ISO14001の全社統合を図り、環境問題をリスクと機会と捉えた環境マネジメントを推進する

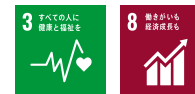


重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
中期環境目標	2020年度達成目標		
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	• (単) 79.5千トン以下	(単) 64.7千トン	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年度までの中期環境目標として範囲を単体から国内外のグループ会社すべてに拡大し、「温室効果ガス排出 (Scope 1+2) を2019年度比で32.5%削減」を設定。なお、2021年度は122.3千トン以下に抑える計画に対して112.4千トンとなり計画を達成</li> <li>「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)」提言に賛同</li> <li>廃棄物発生量は2021年度の集計より上越工場 (2千トン) を日本化薬単体に追加。その他の工場での生産量増加によって3.2千トン増加</li> <li>全社的にリサイクル化が促進されたことでリサイクル率は2020年度の81.3%から82.3%に、ゼロエミッション率は2020年度の1.6%から1.0%に改善</li> </ul>
VOC排出量	• (単) 42トン以下	(単) 52.1トン	
COD排出量	• (単) 150トン以下	(単) 124.2トン	
廃棄物発生量	• (単) 23.5千トン以下	(単) 28.4千トン	
リサイクル率	• (単) 80%以上	(単) 82.3%	
ゼロエミッション率	• (単) 3%以下	(単) 1.0%	
ISO14001の全社統合	統合	ペンディング	

## 職場の労働安全衛生

### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 安全衛生に関する基本ルールの徹底と、設備や作業手順の改善により、安全操業基盤をより強固にする
- 健康経営を推進し、社員が生きいきと働けるワークライフ・バランスのとれた職場環境を提供する



重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
重大事故災害件数 <sup>※2</sup>	(連) 0件	(連) 0件	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康経営優良法人2021 (大規模法人部門) の認証を取得</li> <li>在宅勤務制度の試行導入、時差勤務制度規程の見直しを実施</li> <li>メンタルヘルス研修は新型コロナウイルス拡大の影響で集合研修の開催を延期し、代替としてeラーニング研修を実施</li> </ul>
ホワイト500認証	(単) 認証維持	(単) 健康経営優良法人2021 (大規模法人部門) 認証取得	
有給休暇取得率	(単) 70%	(単) 59.8%	
メンタルヘルス研修受講率	(単) 100% <sup>※3</sup>	集合研修は実施を延期	
定期健康診断受診率	(単) 100%	(単) 100%	

※2 3人以上の同時休業災害または死亡災害

※3 2018年～2020年度の3カ年の累積値

## コンプライアンス

### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 企業活動を行う上での基本原則であるコンプライアンスを徹底し、公正な事業運営を遂行する
- 腐敗防止に関する基本方針を整備し、高い倫理観を持つ風通しのよい企業風土を維持・強化する



重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
重大コンプライアンス違反件数 <sup>※4</sup>	(連) 0件	(連) 0件	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大なコンプライアンス違反なし</li> <li>日本化薬グループ贈収賄防止基本方針を2021年6月に制定し、国内外のグループ会社に周知・展開</li> <li>「内部通報処理規程の改定 日本化薬グループ贈収賄防止基本方針の制定」をテーマとして、国内のグループ会社すべてに研修を実施</li> </ul>
腐敗防止基本方針の策定	策定	策定完了	
コンプライアンス研修の実施会社カバー率	(国内) 100%	(国内) 100%	

※4 倫理委員会または危機管理委員会にて重大と判断した案件数

## 製品サービスの適切な情報提供

### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 各事業におけるレギュレーションを遵守し、お客様へ適切な情報と技術サービスを提供することで、当社グループのプレゼンスを向上させる



重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
顧客満足度調査の定期実施	(単) 実施	(連) 実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能化学品事業では顧客に対し各国基準に適合したSDSと製品ラベルを提供し、製品を安全にご使用いただくための化学物質情報・適切な取り扱い情報を提供。更に、顧客から要望される各種の調査依頼に対応し、適切な調査結果ならびに情報を提供。また、顧客の声をレビューし、次年度計画への反映および継続的改善に取り組む。</li> <li>セイフティシステムズ事業では顧客満足度調査回答を参考に顧客満足に資する事項を事業計画・品質方針/目標に設定し、それらが維持されている事を確認</li> <li>アグロ事業では問題害虫の採取・効力評価・指導機関へのフィードバックの体制を構築し、社内外の農業効力確認試験結果をすり合わせ、現地の防除指針への反映を確認</li> </ul>

## 雇用の維持・拡大と人材育成

### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 多様な人材の採用と効果的な人材配置および交流により、ダイバーシティ&インクルージョンを推進する
- 継続的な人材育成により、ものづくり技術力の継承・強化と人材のグローバル化を図る



重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
女性管理職比率	(単) 8% <sup>※5</sup>	(単) 9.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率は2024年度の到達目標10%に対し2021年度は9.0%となり、対前年0.4%向上</li> <li>障がい者雇用の取り組みとして特別支援学校との連携（協働）を継続</li> <li>従来の職制別、階層別研修に加え、グローバルに活躍できる人材育成のためのプログラムを全社重要課題として見直し中</li> </ul>
障がい者雇用率	(単) 2.3%	(単) 1.99%	
従業員一人当たり教育研修投資額	(単) 実績を公開	(単) 57,000円/人	

※5 2020年度末の目標値

## 人権尊重とアセスメント

### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 社員をはじめサプライチェーンに関わるあらゆる人々の人権に配慮した事業運営を行う

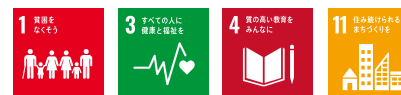


重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
人権に関する研修回数	(単) 1回以上/年	(単) 2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人権」、「肖像権」をテーマに研修を実施</li> <li>日本化薬グループ人権方針を取締役会で決議（2022年4月1日制定）</li> </ul>

## 地域コミュニティ

### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 事業場のある地域社会とのコミュニケーションを積極的に行い、地域に根差した企業として共存・共栄を図る



重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
地域懇談会のべ回数	(連) 実績を公開	(連) 26回	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域懇談会は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、多くの事業場では2020年度に続き開催を中止したが、一部事業場で感染が落ち着いた期間に再開</li> <li>新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、2020年度と同様に多くのイベントを中止したことにより、社会貢献支出額は同程度</li> </ul>
社会貢献支出額 <sup>※6</sup>	(単) 実績を公開	(単) 1.54億円	

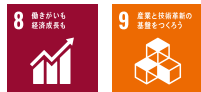
※6 寄付金、あすなるの家の活動費や工場祭等の地域イベント費用



## 経済パフォーマンス

### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 安定した利益を創出し社会に還元するとともに、経営資本として効率的に再投入することで持続的に成長し企業価値を高める



重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
ROE	(連) 8%	(連) 7.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界的な半導体不足などの影響があったが、過去最高の売上を記録し、当期純利益は171億円と対前期36.6%増加</li> <li>自己資本圧縮のため、2百万株の自社株買い (30億円) 及び7百万株の自己株式の消却 (81億円) を実施</li> </ul>
納税額	(連) 56億円	(連) 40億円	
3年間の設備投資額	(連) 500億円/3年間	(連) 116億円/2021年度	

## コーポレートガバナンス強化

### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- グループ全体のコーポレートガバナンスを強化し、透明性が高く健全な経営を行う



重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
取締役会の実効性評価実施回数	(単) 1回/年	(単) 1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性監査役を選任</li> <li>譲渡制限付株式報酬の導入、役員報酬制度を見直し</li> <li>コーポレートガバナンス・コード改訂に対応したコーポレートガバナンス基本方針の変更</li> <li>スキル・マトリックスを作成、開示</li> <li>第三者機関関与による取締役会の実効性評価を実施</li> </ul>
監査部による内部業務監査実施回数	(連) 45回/3年間	(連) 18回/2021年度	

## 事業継続性の確保

### 中期CSRアクションプラン 2019-2021

- 事業に関わるさまざまなリスクへ対応し、生産体制の維持、原材料の適正確保、災害対策の強化により事業継続性を確保する



重要指標 (KPI)	2021年度到達目標	2021年度結果	2021年度取り組みに関するトピックス
TOP5リスクコントロール活動実施率	(連) 100%	(連) 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本化薬単体の各部署、国内外グループ会社のすべてでTOP5リスクコントロール活動を実施</li> <li>国内では地震発生時のBCP訓練として、新規導入した緊急時通信システムを利用して実施。海外では中国グループ会社で行ったBCP訓練をウェブ会議システムで確認・指示</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策として、在宅勤務制度の試行導入、時差勤務制度規程の見直し、ウェブ会議システム活用の推進</li> </ul>
BCP訓練実施回数	(連) 1回以上/年	(連) 2回	